

第4回幼稚園再編に係る地域協議会(なばた幼稚園) 会議録

日 時:令和3年7月8日(木)15時から

場 所:なばた幼稚園リズム室

参加者:森本座長、川上委員、長谷川委員、富名腰委員、森委員、今谷委員、桐生委員、鈴木委員、城山委員、福井委員、井上委員、井村委員、中森委員、坂谷委員

事務局:原井教育長、奥田部長、松田課長、松本指導主事、福山課長補佐、生水(会議録作成者)

傍聴者:5名

<開会>

座長挨拶

次第1 こども園化のシミュレーション

委員説明(別紙資料1)

座長 これほど急激に少子化が進んでいることに驚いた。また、こども園化した際の必要な設備などが理解できた。何か質問はあるか。

委員 他の地域の保育園や幼稚園に通っている子どもたちは、卒園するまでの5年ほどは通常帰ってこないと思うが、もしこども園ができればどの程度移ってくるのだろうか。それは数に反映されているのか。

委員 例えば、現在3～5歳で隣接の私立幼稚園に通う子どもが100人くらいいる。今問題としているのは全国的に0～2歳児が減少しているということ。引き続き保護者の選択として現在の保育園に通う人もいるだろうが、子どもの数自体が減っている。

次第2 「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」で示された再編案(以下「原案」という。)に対する追加意見の共有について

①未就園児の集いによるご意見

事務局説明(別紙資料2)

②幼稚園再編について意見を出し合う会について

事務局 6月21日(月)に会が行われ、事務局も参加させていただいた。育友会より

報告をいただく。

委員 出た意見の大多数は統合に反対というもので、なばた幼稚園単独でのこども園化を望むものもあった。他にも小学校区が違い、生活圏での交流が無く、壱分幼稚園は土砂災害のイエローゾーンに指定されていて、既存の施設であれば避難訓練などで対応するのも仕方ないが、新たに危険なところに通うのであれば原案は見直しするべきといった意見があった。また、少人数ではなぜ良くないのか、先生は一人一人をよく把握してくれているといった意見もあった。必要な集団規模については、今の人数では問題ないが、人数が一桁になったときに経験機会が損なわれてしまうとの回答がこども課からあった。

地域との交流が損なわれるという不安の声もあり、幼稚園での保護者の繋がりによって、小学校や中学校でも自分の子だけでなく、地域で子どもを見守る目が作られていると思う。徒歩通園を通しての交流は大切であり、バス通園では幼稚園の先生との交流ができないので、行事ごとで疎外感を感じたし、バス停での交流では人が限られ交流が広がらなかったという意見もあった。小学校との連携についても、図書室の利用や池の観察などで普段から交流できるようになっていたが、遠くなってしまうとできなくなってしまう。

また、壱分地域で大規模開発があるので、こども園の人数が多くなるため全員の受け入れができなくなるのではないかと、という意見があった。これに関しては前回の協議会後に業者からの申請があったもので、大規模開発が進めば今の統合は難しいのではないかとこども課から聞いている。

なばた幼稚園の方をこども園化できないのかということについては、教室数や駐車場が足りないなどの理由があったが、設備にお金がかかけられないのであれば、既存の園舎での年齢別の受け入れや、近隣園との提携や空き家を利用した分園方式での受け入れなど検討してはどうかとの意見があった。

公立幼稚園は既存のニーズに合致していないので、まずはそこを改めてから入園が増えるかを見極める方が先ではないだろうか。他にもホームページなどを分かり易いように変更してはどうかという意見があった。なばた幼稚園のホームページはアピールポイントなどが見にくく、私立と比べて分かりにくいので入園をためらうという声があがっていた。

座長 これまでなかなか聞けなかった保護者の声を聞けて良かったと思う。今後保護者が不安な思いをしないよう、市は細かな情報発信をしていただきたい。

次第3 幼稚園再編の意見書について 事務局説明(別紙資料3)

事務局 今まで委員の皆様からいただいた意見、聞き取っていただいた意見を基に意見書案を作成した。まとめ方としては意見聴取の項目ごとに作成している。なお、前回なばた幼稚園のこども園化や存続についての意見もあったが、どのように意見書に書き込むかまでは決まっていなかったので事務局案には反映していない。意見書案について委員より意見をいただいている。内容については朱書き訂正しているが、新たな課題の提起や原案作成の過程についてと、検討事項の提案と市の方向性の確認についてである。後ほど委員より説明をお願いしたいと思っている。また、2ページの上段、協議事項は(1)から(3)までであるが(1)しか記載されておらず、協議内容が十分に記載されていないとの意見と、協議会としての総意が記載されていないとの意見もいただいたので、これまで出された意見を確認しながら3ページ下段(2)、4ページ下段(3)に整理し直しさせていただいた。あと、3ページ(2)のリード文に、なばた幼稚園地域協議会の総意を記載させていただいた。

座長 本日新しい意見書の案を示していただいた。まだ十分に目を通していないかと思うが、新たに配布した意見書の案は皆様からいただいた修正案を盛り込んでいて、最初のものよりかなり踏み込んだ意見書になっているのではないと思う。意見をいただいた皆様から補足説明などあればお願いしたい。

委員 この協議会としての意見書を提出するということで、そこに意見が反映されていると期待していた。もう次から来ないと言ったりもしたが、意見書を生の意見として出して良いとのことだったので、期待して待っていた。協議会で言えていなかった、両園の位置関係や人の流れについての資料も作らせていただいた。これまでの過程についてあまり問題にはしたくないが、私たち地域の人の前に生駒市の説明会があって、地域が無視されている感じがしてアンフェアに思ったので、かなり過激に書いてしまったが、これについては文面ほどの強い感情はない。バス通園という意見があるが、保育園に行っている自分の孫のことを考えた。孫の送り迎えを時々するが、朝の交通安全活動をしてきている人に確認すると、7:30~8:30というのは道路が大渋滞になっている状況とのこと。だいたい70%は北を向いて走っている。娘は5時半におきて支度をしているわけだが、この地域から壱分幼稚園に行くとすると、通行不能の道があるので、大きな道路を通らざるを得ない。そうなったときに、一度子どもを園に送ってから、渋滞している逆方向に向かわねばならない。これは困ると思って意見を出した。

それから壱分幼稚園の周辺だが、本当に駐車場が確保できるだろうか。実際に現場も見て回り、1箇所駐車場らしきところもあったがいっぱいであった。他にもあったが、道路をまたいだところであった。なばた幼稚園周辺であれば、近隣に数箇所候

補地がある。よって、こちらのほうが条件は良いということでお伝えさせていただいた。ところが、その後に来た意見書には協議事項が何も反映されていなかったのも、事務局に抗議したのである。今回で私たちの意見を出すのは最後だと思うので、反対であるとはっきりしたい。これまでは口を出す余地はないと思っていたが、意見が通るか通らないかは別として、全て意見を出して、それで意見書をあげて、それでダメならば諦めるしかないし、市政に対しては落胆するし、議会は市民のことを考えていないと思う。

座長 今回の意見については5ページ③と④に追記されている。

委員 いろいろ意見を出させていただいたが、追加修正された意見書案に反映されていると思う。基本的な考え方の中に財政や公共施設の削減とあるが、そこから統廃合の話がスタートしているという様にしか見えない。子どもの人数が減るのは当たり前なのだから、その中でどうやって子どもの教育や保護者の意向を汲み取っていくのかということが重要だと思う。それなのに財政削減が根本にあるので話が本末転倒になってしまっている。意見としては存続やこども園化、財政や公共施設について、後は総意についても書かせていただいた。

委員 総意について、最初に書くべきではないかと電話でお伝えした。次第1の部分について質問があるがよろしいか。統廃合した時は受け入れ可能人数が集まるのに、それぞれでこども園化したときは減少していく子どもの数を算出して当てはめているのはどうしてか。

委員 受け入れ可能人数というところは、ハード面を考えると0～2歳を1クラスずつ、3歳児は20人クラスなので3クラス、4・5歳児はそれぞれ2クラスとして合計10クラス。保育室が10クラスなので割り戻すと、このような規模になるという数字。それに令和7年度の推計とあるが、これが大きな開発等がなければ、そのまま3～5歳の人口が入ってくるので、3～5歳は実人数になって、0～2歳は家にいる人数を当てはめている。

委員 令和7年の数字を当てはめて考えれば良いということか。受け入れ可能数でいうとなばたも壱分もまだ余裕がある。子どもの数がないからということか。

委員 壱分幼稚園だけをこども園化したときはこれと同じ人数となる。なばた幼稚園をこども園化すると教室が1つ少ないので9クラスとなり、どこの学年を1クラス減らすのかということにはなるが、例えば3歳児を少なくすると20人減るので、受け

入れ可能人数は213人となる。これはあくまで施設があって入れる人数であり、生駒市内や近隣市町村の園にも空きが出ているので、こども園にしたからといって、まだ生まれていない子どもが急に増えるということは考えにくい。よって、今いる子どもを割り当てたということになっている。説明を省いた部分があって申し訳ない。

座長 あくまでも数年先のことなので、不確定な要素が予想されるということ。意見は意見書に反映されているか。

委員 反映されているが、この意見書は完成形ではないという認識で良いか。

座長 はい。意見書案の赤字の部分を中心に見ていただきたい。原案に反対とし、保護者・地域の代表としてなばた幼稚園の存続又はこども園化を求めるということをなばたの地域協議会の総意として出していくということによろしいか。それでは次に(2)以降についても確認してほしい。今まで協議してきた内容が記載されていると思うが、何か意見等あるか。

委員 先ほどから開発の話が出ているので補足するが、生駒市の都市整備部建築課や地元の業者に調べてもらった結果、東生駒3・4丁目と東菜畑2丁目から壺分町に住宅地を作る計画は確かにある。しかし、これは事前調整の段階であり、確定はしていない。よって、将来的にできるかもしれないが、まだ無の状態。それと東菜畑1丁目の開発は止まっているが、北の月見が丘の住民は開発に当たって通行可能にしてほしいと思っている。しかし、東生駒1丁目の住民は通行不可にしてほしいということで難航している。ただし、開発があっても道が通行できるかとは別問題である。また、東小学校学童の人数が増えている。生徒さんに聞くと、保護者の送迎についてはかなり負担になっているようである。それも頭の隅に入れていただき、なばた幼稚園の存続について検討していただけたらと思う。

座長 他にも意見はあるか。

委員 東小との幼小一体化について、小学校には空き教室があるが、様々な行事で利用しているので幼小一体にするのは難しいと思う。また、これを認めてしまうとなばた幼稚園は無くなってしまい、改修にお金がかかり、多目的に使っている部屋を空け渡してもらうことにもなる。よって、この意見は入れないほうが良いと考える。あと、その他の施設との併設についてだが、確かに壺分側に移ってしまったならこれらの案を出すのも良いが、この意見も廃園の口実になるのではないかなと思う。よって、市の決定が出てから検討する意見ではないだろうか。それから個人の意見になるが、

私立との統合もいい気がしない。菜畑という名前を残してもらえるか不安がある。本年度から全校区でスタートした地域学校協働の理念を生かすには、地域と教育を堅実に繋いできたこの菜畑の場所しかない。同じことを違う場所でやるのは難しい。東菜畑2丁目の方々には農地を開放してもらったり、茶道をしてもらったり、れんげ畑を作ってもらったりしていて、この地域から離すことはできないと思っている。私は今まで自分が地域にあまり関わってこなかったことを反省している。園舎を足したり、追加で建設したりする気は無いと思うが、ぜひ建て増しも検討してほしい。

座長 4ページ③④⑤については省いたほうが良いのではないかという意見が出たが、どうか。

委員 最初にいきなり統廃合という意見だったから、他の方法ということで提示したものであり、これはこれで書いておけばいいのではないか。ただし、単に羅列すると検討事項が多くなるので、優先順位をつける作業は必要だと思う。なばた幼稚園がこども園化できるのであれば、それが一番だと思うので他の方法は消えるが、それができなかった場合の案として、順位づけして記載しておくほうがいいのではないだろうか。新しい意見書には、全体的に協議した内容について網羅されていると思う。今までの肩透かしのような議論とは違って、意見書として効果のあるものであると考える。総意についても反対意見は無いのではないだろうか。

座長 削除するか残すかということについて意見をいただいた。(2)の①②を強調して、いずれも難しい場合には③④⑤の方法があるという表現でよろしいか。他に何か意見はあるか。

委員 「2、協議会としての意見」は統合・再編ありきの内容だと思うが、これも意見書の中に記載していくということになるのか。

座長 地域協議会は、市教育委員会の提示する原案について課題と解決策を検討することが大きな役割ではある。このことから、記載することになる。

委員 であるならば、まず原案に反対という総意を先に入れて、次にこのようにしていきたいという提案を入れて、もし万が一統廃合を進めるのであればということで最後に(1)の内容を入れるべきではないか。本当は(1)についてはそもそも原案に反対なので記載もしたくないという思いだが、実績として記載は必要なのか。

座長 今まで議論したこと全て省いてしまっても良いのだろうか。

委員 今まで協議した内容が、作戦的に当初の意見書案のようにされたのではないかというのが私の激怒したこと。腑に落ちないところはあるが、通園児の負担なども記載するか、あるいは全て抹消してしまうかだと思う。

座長 仮に統合となった場合のために、意見は書いておいたほうが良いのではないだろうか。決定後に希望を伝える機会はあるか。

事務局 地域や保護者の意見を聞いていただく場はない。今後決まった方針について、具体的にどのように運営していくかという話し合いはある。当初からお伝えしている懇話会というのがそれにあたる。ただ、地域協議会で聴取方法を決めて皆様に意見を集めていただいたので、地域の意見として残しても良いのではないかと思う。たしかに圧倒的に反対意見が多かったが、賛成意見やその他の意見もあった。意見聴取票で意見を集めたということは、意見書の最後にも資料で載っているの、内容は残しても良いのかなと思う。

座長 今までの意見を基に構成を変更して、意見書案を作り直してはどうかと考えるがどうか。

委員 それで意見が通るのか、合併ありきなのではないか。行政のスタンスがわからない。議会からも10億円削減という意見が出ているが、教育にお金の話をしてはいけない。なばた幼稚園については議会にもあがると思うが、今後10億削減しなくてはならないのであれば、ここで議論して行政にぶつけたことが通るとは思えない。私は意見が反映されないと考える。

座長 地域の思いは行政に受け取っていただきたいと思う。そのためにもしっかりとした意見書を作成し、考えを伝えていきたい。結果として、覆ることもあると信じているし、期待している。

委員 結局、議会で削減ということになるのではないかとと思っている。

座長 意見書について、事務局の原案を基礎にして構成を変えてはどうか。委員で作成していただける方はいるか。

委員 皆様が了承していただけるのであれば、意見書案を作成する。地域の意見については、なばたの地域協議会の要望が通らなかった場合のために残しておく。

座長 当初のスケジュールでは次回が最後の会議となっている。意見書の方向性として、再編案には反対であり、なばた幼稚園の存続とこども園化を希望するということも決めていただいた。これ以上に協議を伸ばして続けるのもどうかと思うので、今月中に意見書案を作っていて、事務局のほうへ送ってほしい。そして、事務局のほうから委員の皆様を送っていただきたい。そして次回の協議会で完成させるという段取りでよろしいか。

委員 最終確認だが、まずはこの場所でのこども園化を希望する。仮に合併するにしても、なばたでのこども園化を希望する。このような方針で作成する。また、市の原案通りになってしまった場合に対する意見も記載はしておく。

座長 大変な仕事だが、願います。本日の案件は以上となるが、何か意見等はあるか。

委員 前の山下市長の時に関西一の魅力ある都市ということで待機児童0を目指して旗振りし、新しい園ができたが、現在待機児童はどうなっているのか。受け入れるところが足りていないのか。

事務局 まだ待機児童は解消されていない。3歳以上については解消されているが、0～2歳、特に1歳については待機児童がいる。6月入所の分になるが、現在13名の実質待機がいる。

委員 最近仕事に行くために0歳から預かってほしいという長時間保育のニーズが高まっているが、それに対する旗振り役はいるのか。例えば、明石市は医療費や教育などに力を入れて様々な政策を行い、若い人口が増えている。生駒市は住みやすい街づくりという政策はもうやめているのか。また、どこの市町村を目指しているというイメージはできているのだろうか。公立幼稚園同士の統合をしても限界があると思うので、私立との統合も視野に入れるべきである。そういった今後のヴィジョンを明確にしていきたいと思う。

委員 平成24年、保育園の園児数は1705人であったが、その後、待機児童解消の為に新たに保育園を整備するなどし、定員を増やし、令和2年の園児数は2377人となった。しかし、それ以上に保育園への入園希望が高く、待機児童の解消には至っていない。ただ、28園の保育園があるが、18園は1歳児以外のところで定員割れになっている。よって、生駒市では0～2歳を受け入れる小規模保育施設を公募しようと

している。

事務局 次回の日程は8月6日(金曜日)の午前10時から、会場はなばた幼稚園リズム室ということで決定する。

<閉会>